

- エキシマライトって？ 1
- 副院長就任のご挨拶・総合支援センターについて 2
- 「がん化学療法看護」認定看護師の業務・山陰労災病院市民公開講座のお知らせ ... 3
- 建替え工事始まる・第8回 山陰労災病院夕涼み会・新任医師紹介 4

エキシマライトって？

皮膚科部長 三島 エリカ



光線療法の1つであるエキシマライトによる治療が当院でもできるようになりましたのでご紹介します。

【背景】

皮膚科では以前より紫外線療法を主体とした光線療法が行われてきました。

1974年の尋常性乾癬に対する8-methoxypsoralen内服とUVA照射によるPUVA療法に始まり、外用によるPUVA療法もされるようになり現在まで行われています。その後311nmをピーク波長としたナローバンドUVBが開発され、国内では2002年以降普及してきました。さらに

308nmをピーク波長としたエキシマライトが導入され、2007年以後広がってきています。

【対象疾患】

保険適応疾患の主なものは尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、アトピー性皮膚炎です。特に掌蹠膿疱症では効果が高いように感じています。

【特徴】

エキシマライトはターゲット型照射器のため1回の照射面積はナローバンドUVBに比べ狭いですが、そのことが限局した病変には適しています。また1回の照射時間が短く、初回は10秒以内で患者さんへの負担も少ないです。

内服外用で改善が乏しかったり、内服が困難だったりする方でも使えるのが良い点です。週1～2回の照射で3～10回ぐらいから効果が出始めます。

【最後に】

回数はかかりますが、治療効果が出ると患者さんの意欲も出て通院していただけます。治療法の選択肢が増えることで満足度も上がっているようです。

現時点では適応疾患が限られていますが、他にも効果が見られる疾患があり、今後の適応拡大を希望しています。



副院長就任のご挨拶

副院長 福谷 幸二



この度、6月1日付けで副院長を拝命しました福谷幸二です。

私は昭和60年に鳥取大学を卒業後、第三内科で呼吸器疾患診療に従事した後、平成8年4月に山陰労災病院では初めての呼吸器内科医として赴任しました。山陰労災病院では、呼吸器疾患全般の診療に加え、院内感染対策の責任者として感染制御に携ってきました。

一方で、労災病院の使命である労災疾患のじん肺、石綿関連疾患の検診と勤労者予防医療で重要な人間ドックを担当してきました。

今後、高齢化が進むにつれ、高齢者肺炎など呼吸器診療の需要は増すばかりです。また、少子高齢化は労働人口の減少にもつながるため、今後、勤労者医療は予防を重視し、さらに病気の治療と就労の両立支援に取り組むことが必要となります。また、感染対策に関しましては、これまでの感染制御に加え、今回の診療報酬改定で抗菌薬適正使用支援の方針が国から示されたことから、この分野にもこれまで以上に力を入れていく必要があると考えています。

このような理由から、副院長就任後も、呼吸器疾患診療、勤労者医療、感染対策については引き続き携わっていくつもりです。

さて、今回、副院長を拝命するにあたって、これまで病院機能評価受審対策の程度でしか考えていませんでした「信頼・優しさ・安全」という山陰労災病院の理念を思い起こしてみました。どんな組織においても一番大切なのは信頼関係です。最近、自己保身のためには平気で嘘をつく風潮があり、社会全体に不信感が蔓延しています。しかしながら、医療分野は決してそうであってはなりません。病院においては、まず職員同士がお互いを信頼しあい、安全な医療を心掛けることが最も重要です。その結果として、地域の皆様に信頼される病院となり、さらには病院経営を安定させることにつながると確信します。

副院長就任を機に、本院の理念である「信頼・優しさ・安全」の原点に立ち返り頑張ってみようと考えておりますので、引き続きご支援・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

総合支援センターについて

副院長

総合支援センター長 野坂 仁愛



皆さんこんにちは。総合支援センター長の野坂でございます。今回は総合支援センターをご紹介します。

●役割

総合支援センターは、外来・入院患者さんに対して前方支援（地域連携・地域医療の推進、他医療機関との紹介及び逆紹介）と後方支援（医療相談及び入退院支援）の2本の柱で成り立ち、病院内のメディカルスタッフと地域の保健医療・介護機関が連携し、患者・家族にとって最良の入退院支援及び退院調整を行っております。

●体制

総合支援センターにはセンター長、副センター長の他に入退院支援部門に4名の支援看護師、医療相談部門に3名の医療ソーシャルワーカー、地域連携部門に5名（うち1名は兼務）の事務職員を配置しております。

●業務内容

- 1) 入退院支援部門では支援看護師が各病棟に赴き入退院支援アセスメント・カンファレンスや退院調整を行います。
- 2) 医療相談部門では医療ソーシャルワーカーが医療福祉相談、介護福祉相談、治療や看護に関する相談、医療安全に関する事を承ります。
- 3) 地域連携部門では事務職員が地域の医療機関との診療連携における紹介患者窓口などの業務を行います。

●活動状況

毎日それぞれの部門スタッフが病棟に外来に電話対応にさらには他施設への訪問にと患者さんのためご家族のために奮闘しております。

最後になりますが、担当者の紹介をさせていただきます。

総合支援センター：センター長 野坂副院長、副センター長 岡本看護副部長

(地域連携部門) 地域連携室：成田医事課長、金平、松本、後藤、中本

(福祉相談部門) 医療福祉相談室：松ケ野MSW、足立MSW、池谷MSW

(入退院支援部門) 医療相談室：入退院調整部門専従 小前看護師長補佐

入退院支援病棟専任 山岡看護師、松本看護師、
田子看護師

「がん化学療法看護」認定看護師の業務

がん化学療法看護認定看護師 原田 由美



当院では、年間約 1400 件（平成 28 年度：外来 760 件、入院 713 件）のがん患者さんに対する化学療法を行っています。

外来治療室は、ベッド 6 床、チェア 2 床の計 8 床です。BGM を流し、治療を受ける患者さんが少しでもリラックスできるようにしています。

がん化学療法看護認定看護師は、がん化学療法を受ける患者さんとその御家族が治療への理解を深め、不安を少しでも軽減し、安全に治療を受けることができるように、また副作用を可能な限り軽減できるようにサポートすることを役割としています。

抗がん剤は副作用が出るものだと思います、我慢されている患者さんがいらっしゃいます。現在、全てではありませんが、多くの副作用は予防ができ、出現した場合には軽減させることができるようになっていきます。副作用の軽減は、医療者だけが行うのではなく、患者さんご自身で副作用を早期発見し、症状に対応していく必要があります。それぞれの患者さんに適した方法を患者さんや御家族と相談しながら、提供させて頂いています。

例えば、皮膚に副作用が出る場合はスキンケアが必要になります。今までのスキンケアの方法をお聞きし、その方法でいいのか改善した方がいいのかを検討し、患者さんの負担にならない方法を患者さんと一緒に決定していきます。継続していくことが大切となるため、その後の経過もお聞きしています。

また、ウィッグが必要な患者さんに対しては、ウィッグの種類や購入可能な場所などの情報を提供させて頂いています。外来治療室には、ウィッグの見本やパンフレットを準備していますので、実際にウィッグの使用感も経験していただいています。

その他の活動は、患者さんが安全に抗がん剤治療を受けることができるように、抗がん剤治療に関わる看護師に向けての勉強会を開催したり、看護師からの相談を受けることもあります。

がん化学療法は日々進歩しています。その進歩についていくためにしっかり勉強し、がん化学療法に関わる患者さん、ご家族はもちろん看護師を含む医療従事者皆さんのお手伝いが出来ればうれしく思います。



山陰労災病院市民公開講座のお知らせ

日時 平成 30 年 10 月 13 日（土）13：00 開演 場所 米子市文化ホール / イベントホール
演題 「消化器がん治療の現状と展望」（仮）

皆さまのご来場をお待ちしております。（詳細につきましては後日ホームページ等でお知らせいたします。）

建替え工事始まる

山陰労災病院は今年で設立 55 年目を迎えますが、長年の懸案であった病院の全面建替え工事が平成 30 年 2 月から始まっています。

再来年（2020 年）3 月に救急部門、外来部門、病棟の一部等を含む新棟西側部分、その翌々年（2022 年）5 月に人工透析部門等を含む新棟東側部分が完成し、2024 年 3 月に外構整備を終えて全面竣工する計画となっています。

建替え工事に伴い手術部門の効率化や救急部門の拡張と機能集約、産婦人科病棟の強化や HCU 病棟、化学療法室並びに透析ベッドの増床を図り、病院の診療機能を高めるとともに、安全で快適な入院環境を提供し地域医療に貢献していきたいと考えています。今後とも皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



【平成 30 年 6 月旧リハ棟と
旧MR I 棟解体工事後】



【2024 年 4 月完成イメージ】

第 8 回 山陰労災病院夕涼み会

「素晴らしい夕涼み会、ありがとうございました。」このような冒頭ではじまる感謝の手紙。がん治療を受けている患者さんの奥様からのお言葉です。がん治療を受けている患者さんで、米子に住んでいながらご主人とともにがいな万灯の実物を初めて見たそうです。「来年は二人でみる」ことはないであろうと…。夏祭りの楽しいひと時を、すべてを忘れ過ごすことができました。本当に有り難うございます。感謝の気持ちでいっぱいです。」このような感謝の気持ちを伝えてくださいました。当院が患者さんのために何かできることがないかと始めた夕涼み会も、今年で 8 回目となりました。患者さんに元気や楽しみを感じていただくという思いで行ってきましたが、思いもよらずこのような感謝の気持ちを頂き、私たちのほうが活力を頂いたように感じています。今年も皆さんのために全力を尽くしてひと夏の良い思い出となるよう頑張ります。



開催日 8 月 4 日（土）19 時～ 20 時
場所 山陰労災病院 正面駐車場
催し がいな太鼓（尚徳子供連）、よさこい（寿製菓）、がいな万灯、花火、ヨーヨー釣り、ポップコーン、かき氷、綿菓子、ジュース（すべて無料）

新任医師紹介 ～よろしくお願ひします～



●小児科医師 うお たに み え
魚谷三恵

- ①出身大学：宮崎大学 ②出身地：千葉県野田市
- ③特技・趣味：刑事ドラマを観ること
- ④自己PR：平成 17 年に大学卒業後、初期研修は宮崎大学で行いました。結婚を機に米子に来て 10 年になります。小児科医師としては、鳥取大学小児科入局後、3 人の出産、育児で休みながらの勤務でしたので、まだまだ未熟ではありますが、自らの育児で得た経験も活かしつつ、受診される子供たちと御家族の気持ちに寄り添えるような診療を日々心がけていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。